

国内経済情勢

概 観

金融市場はこのところ繁忙を呈しており、コール・レート等市場金利はさらに上昇をみた。銀行の融資態度は窓口指導を背景に抑制の度を強め、貸出の伸びはしだいに鈍化しているが、企業の資金繰りには総じてみればなお余裕が残っている。

この間国内需要は依然かなりの速度で拡大しており、卸売物価の騰勢は再び強まっている。労働力需給も一段とひっ迫し、賃金の伸びも高まった。

一方5月の国際収支は、貿易収支黒字幅の縮小などから3ヵ月連続の大幅赤字となった。

日本銀行は、当面の経済情勢にかんがみ金融引締めをさらに強化することとし、公共投資の繰延べ等財政面の措置とあいまって、6月30日、公定歩合を0.5%引き上げることを決定した。

出荷の伸び目だつ

5月の鉱工業生産(季節調整済み、速報)は前月比+2.7%と再びかなりの増加となり、原計数の前年同月比も+19.7%に達した。業種別にみると、繊維が絹織物、繊維二次製品を中心に微減したのを除き、ほぼ軒並み増加した。

鉱工業出荷(季節調整済み、速報)も5月は、前月比+3.7%と、2ヵ月連続して生産を上回る伸びを示した(原計数の前年同月比は+20.3%)。業種別にみると、生産同様繊維を除きほぼ全業種が

増加している。

生産者製品在庫(季節調整済み、速報)は、前2ヵ月連続増加のあと5月も前月比+0.1%の微増となったが、上述のように出荷の伸びが大きかったため、生産者製品在庫率指数(季節調整済み、速報)は86.4と昭和36年8月以来の低水準に落ち込んだ。

設備投資関連指標の動きをみると、5月の一般資本財出荷(季節調整済み、速報)は前月反動減のあと再び+3.7%と増加し、ならしてみると昨年未だ高い伸びが続いている。

5月の建設工事受注額(季節調整済み、速報)は前月比+4.6%の増加を示した。これは民間産業からの受注が前月に引き続き著増(+9.9%)したためであり、官公庁からの受注は公共事業契約繰延べの影響もあって3ヵ月連続の減少となった。

5月の労働関連指標をみると、有効求人倍率は求人増、求職減を映じて1.75と既往最高を記録した。また名目賃金(全産業、季節調整済み)も春季賃上げ分支払のずれ込みもあって前月比+4.9%と最近にない伸びを示し、前年同月比では+20.5%(前月同+16.7%)に達した。

5月の全国百貨店売上高は、身の回り品、食料品等の増加を中心に前年同月比+27.0%と前月同様に高い伸びを続けた。

卸売物価の騰勢強まる

6月の商品市況をみると、外材、原糸の一部に軟化がみられたが、鉄鋼、非鉄、合成繊維等の主力商品が続騰し、化学製品、紙等も強含みを続け

るなど、全般に騰勢を持続した。商品の一部には、季節的な需要一服(灯油、セメント)などからひところの極端な需給ひっ迫状態がいくぶん是正されたものもみられたが、全体として需給は強い引き締まり基調を続けている。これは、末端実需の増大に加え流通段階でも繊維品の一部、木材を除き在庫手当て意欲が依然強い一方、供給面では原料面でのあい路(エチレン、紙)、人手不足(機械類等)、公害問題による増設難(かせいソーダ、塩素)などの事情があるためである。

卸売物価は5月前月比+0.9%と大幅上昇のあと、6月に入ってから、非鉄、鉄鋼をはじめほぼ全品目が値上がりを示したため、上、中旬とも前旬比それぞれ+0.5%、+0.3%と続騰し(中旬の前年同月比+13.5%)、月中平均では前月を上回る上昇が見込まれている。

6月の消費者物価(東京、速報)は、野菜等季節商品が反落したため前月比+0.2%の小幅上昇にとどまったが、季節商品を除く総合では雑費、住居費を中心に前月比+1.1%と続騰した(前年同月比上昇率、総合+11.5%、季節商品を除く総合+11.1%)。

金融市場は繁忙化

6月の金融市場をみると、銀行券は官民賞与の支給等から月中7,161億円の大発行使超(前年同4,939億円)となり、財政資金対民間収支も、税収・郵便貯金の好調を主因に一般財政の揚超が前年を上回ったほか、外為会計も大幅な揚超が続けた。このため、「その他」勘定と合わせた月中資金不足額は15,278億円(前年同9,317億円)の巨額に上り、日本銀行は債券・手形の買入れおよび貸出によりこれを調整した。コール市場はほぼ通月繁忙裡に推移し、コール・レートは22日および29日

それぞれ0.125%上昇の後、公定歩合の第3次引上げに伴い7月2日以降さらに0.5%上昇した(無条件物出し手レート7.25%)。また、手形売買レートも22日0.125%上昇した後、7月2日には同様5.0%の上昇をみた(買い手レート7.75%)。

6月の銀行券平均発行高は、前年同月に比し+27.5%と引き続き高い伸びを示し、5月のマネー・サプライも、預金通貨を中心に前年同月比+31.2%と高水準を続けた。

5月の全国銀行貸出増加額は都市銀行の抑制を中心に前年同月を16%方下回り、前年5月の沖縄復帰に伴う増加分を調整した実勢でみても、前年同月比+9%と前月までに比し増勢は大幅に鈍化した。ただ中小企業金融機関のうち、信用金庫等ではなおかなりの貸出増勢を持続している。この間、企業の資金繰りは、不動産、卸売業等の一部にいくぶん繁忙感もみられるものの、総じてみれば決算関係資金の流出にもかかわらず、なお余裕を残している。

5月の全国銀行貸出約定平均金利は、月中0.132%の上昇と1ヵ月間の上げ幅としては最大となったが、4、5月利上げ幅の公定歩合引上げ幅に対する割合は23.5%(44年公定歩合引上げ時27.3%)にとどまっている。

6月の公社債市況は、月初来弱含み横ばいに推移し、下旬以降は地方銀行、農林系統機関等の買控え姿勢の強まりから長期ものを中心に小幅軟化した。また株式市況は、月中薄商い、不ぞろいに推移した。

国際収支は5月も大幅な赤字

5月の国際収支は、貿易収支の黒字が少額にとどまったうえ、引き続きリース・アンド・ラグズの反転がみられたほか、ガリオア・エロア等既往

外国借款の大口返済もあり、総合収支では既往最高の1,185百万ドルの赤字と、3ヵ月連続10億ドルを越す大幅赤字となった。貿易収支黒字幅は季節調整後の計数でみても、275百万ドルとさらに縮小をみた。

5月の輸出を通関ベースでみると、前年同月比+33.3%(邦貨表示額では同+14.8%)と伸びを高めたが、このところの増加は輸出価格の上昇による面が大きい。品目別にみると、鉄鋼、自動車、一般機械等が増加し、地域別には、非米地域、なかでも発展途上地域や共産圏向けがかなりの伸長をみている。6月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、機械類、化学製品等を中心に前月比+3.8%と増加した。

5月の輸入(通関ベース)は、前年同月比+64.8

%(邦貨表示額では同+41.9%)と著伸した。これは、国内需給のひっ迫に伴う輸入量増大に加え、価格の高騰もあって原燃料、食料品等が著増したほか、一般消費財もさらに伸びを高めているためで、地域別にみても、米国をはじめ各地域から軒並み輸入が増大している。

6月の外国為替市場は、輸入決済の高水準、諸送金の増高などから外貨需給がほぼ通月ひっ迫ぎみに推移し、インター・バンク米ドル相場は総じて堅調裡に推移した。

6月の外貨準備高は月中669百万ドル減と、ここ一兩月に比べて減少幅がやや縮小したものの、4ヵ月連続大幅減少の結果6月末残高は152億ドルとなった。

(昭和48年7月6日)